

(2) 変化による成長

キャリアを形成していくものには、意図しない環境変化によるものも多くあります。特定の分野に関する知識を得たい、課題だと感じている能力を高めたいなどと意識していなかったにもかかわらず、後から振り返ってみるとたまたまある変化に遭遇したために獲得できたものがあるということです。

例えば、人事異動で所属部署が変わることになった場合、担当業務が変わり、仕事をするために必要な知識やスキルを新たに身に付けなければなりません。上司や同僚も変わるため、人間関係を構築する必要性もあります。さらに勤務地の変更を伴う場合は、生活拠点も変わるため、その地域に溶け込む努力や地域性に合わせた生活を送る中で新しい人脈が作られるということにもなります。

予期していなかった環境の変化に対応することで、新たな知識やスキルの獲得、対人対応力や変化適応力の向上などにつなげることが可能となります。一つのことに集中して取り組んだ結果、専門性を高めていくというキャリア形成の仕方もちろん重要な手法ですが、「計画された偶発性」*¹というキャリアに関する理論もあるように、予期せぬ出来事や突発的なことをチャンスととらえることもキャリアを形成していく上では大変重要なことです。与えられる機会、自ら作り出す機会、偶発的な機会から多くのことを学び取ることができるのです。失敗することを恐れず、失敗から学ぶことを重視し、試行錯誤を繰り返すうちに成長を遂げることができると知っておくことが大切です。より多くの経験から変化につながる機会を得ることが、社会人として成長するためには非常に重要です。